

ここで、9月30日の任期をもって議員をお辞めになる方がいらっしゃいますので、御挨拶を頂きたいと思います。なお、写真撮影について許可しておりますので、御承知おきください。最初に、3番議員の内田晃君から退任の御挨拶をお願いします。

3 番 内 田 退任の挨拶ということで、一言御挨拶させていただきます。その前に、3日間、第3回定例会、議員の皆様、また職員の皆様、本当にお疲れさまでした。御苦労さまでした。

私ごとの話になってしまうのですが、私も職員上がりということで、55歳のときに早期退職をしまして、ちょっと自分がやりたかったことをやってたわけですけど、そんな中、63歳を目前にして、ある方から、次の町会議員選挙にぜひ出ないかというお誘いを受けました。最初はちょっと私も固辞してたんですけど、何度も何度もそういうお誘いを受けて、とうとう私も根負けてしまい、63歳で、結果は無投票だったんですけど、議員になれたということで、よく分からない、初めてのことで、皆さんの様子をうかがいながら、4年間何とか勤め上げたかなという気持ちでございます。

いろいろ思い出すこともあるんですが、私が職員だった頃のちょっと話をさせていただきますと、その当時、たしか議員はもう20名ぐらいいたのかな、人数的に。それで、名前は言いませんけど、ある議員は相当、こんなこと言ったら申し訳ないかもしれないですけど、癖のある方で、またよく職員を恫喝していた議員がおられました。名前は言いません。私もそれを見てて、よく恫喝されていたのは、後ろにいる皆さんと同じ課長クラスの職員がよくやられてました。それで、ある課長も再三そのような無理難題を押しつけられて、仕方なくそれに従ったという方もおられました。その下で私なんか働いていましたもので、課長からしょうがねえからやってやるよとか、そういうふうな形で私も職員時代を過ごしてきました。でも、それは昔の話で、今ここにいらっしゃる議員さんたちは決してそのような無理難題等を言う人たちは誰もいないと思います。その分、今の職員の皆様はある程度気が楽というか、じゃないかなという、私なりに4年間見てて思いました。私も議員になったら絶対そのような議員に

はならないということを自分なりに決めて4年間やってきました。皆さんにはそういう言葉をかけたことがないとは私は信じております。

それで4年間やった中で、いろんな意見とかそういうことも発したわけですが、私が一番感じたのは、初めて自分の議席に座って、皆さんの顔を正面から見たときです。皆さんは私が職員のとときに、ほとんどが新入社員、新規で入ってきて、まだ若く、初々しいところでした。私と一緒に、私の部下としてやられた方もいるし、私と同じ課で、仕事が違っても同じ課で働いた方もいます。それと、よく仕事が終わってお酒を酌み交わした職員もたくさんいます。その顔を見たときに、懐かしいなというのがまず第一印象で、その後、次は、あんなに若くて初々しかった、ね、職員が、今はもう立派に課長職として議会でも立派に答弁している。その、何ていうかな、見てて、お、大したもんだなというような気持ちになったのも感じました。

それで、いろいろまだ思い出話を言えれば切りがないんですが、今日議会終わって、正直言って一抹の何か寂しさみたいなのは、ちょっと湧いてきました。これでもう皆さんとこういうふうにお会いすることはもうできないんだという、ね、ちょっと寂しさもありますけど、また違った形で何か町のためにお手伝いのできたらという気持ちで今はおります。

もっとももっといろんなことを話したいなと思ってるんですけど、それは次の席でちょっとお話をしようかと思っていますけど。何はあれ、これから松田町、今、大変な時期です。人口減、それから新松田駅前の開発等、いろんな問題も山積していると思いますけど、議員の皆様、また職員の皆様、この町をよくする、ね、ために、車の両輪となって町の発展に寄与していただければ、本当にありがたいと思っています。それを期待してお別れの御挨拶に代えさせていただきます。いろいろありがとうございました。（拍手）

議 長 長い間お疲れさまでした。

続きまして、8番議員の中野博君から退任の御挨拶をお願いします。

8 番 中 野 1期生があんなに見事にやられちゃうと、私は何しゃべっていいのかなと。
（「やらなくてもいいですよ、まだ時間もありませんから。あと2週間ほど。」）

の声あり) そうだね、まだ出るも出ねえも言ってねえんだけどな、俺。(笑)

4期16年間、今思ってみますと、長いようであつという間の16年間でありました。この間、今私は本当にこの町のため、また町民のためにお役に立ててきたんだろうかなと、そんな自問自答の毎日でもあります。そして、町の職員の皆様方に、時としては無理難題を押しつけ、大変御無礼な面もあったんではなかろうかと思っております。この場をお借りしまして、その点につきましては重々おわびを申し上げたいと思っております。

私はここでこの議会というものを去りますが、私はこの松田町というものが大好きです。私は議会は去っても、その後、この松田町がどうになってでもいいよという気持ちなど毛頭ございません。したがって、今後も何らかの形でもってつながりを持ち、微力ではございますが、少しでもお役に立っていただけたらなど、そんなふうに思っております。

今思い返してみますと、この16年間という歳月は、私の人生、また、人生観を大きく変えてくれた年月でございました。そして、私の人生の中で一番光り輝いていた16年ではなかったかなと思います。そして何よりも楽しかったです。本当に皆さんとお会いできて、この議会に来るのが楽しかった。そう思えるのも皆さん方の温かい御支援、そのたまものだと深く感謝をしておる次第でございます。

私は今年、後期高齢者のお仲間入りをして、75歳になりました。しかし、まだまだ若僧のつもりでおります。したがって、これから今までできなかったこと、また、やれなかったことに再チャレンジをしようと思っております。残された人生あと何年もございませませんが、また、その節には皆様方の御厄介になることもあろうかと思っておりますので、よろしく願いを申し上げます。

先ほど内田議員も申されましたが、いざ、この席に立ちますと、ああ、今日で終わりなのかといった一抹の寂しさもございます。しかしながら、これからの町の行く末や、今後残られるであろう議員の皆様方に託してまいりたいと思っております。

結びに当たりまして、この松田町のますますの発展、並びに議員各位のます

ますの御活躍、御多幸を御祈念を申し上げまして、私の16年間の、本当に本当にありがとうございましたという言葉で締めくくらせていただきます。本当にありがとうございました。（拍手）

議 長 長い間お疲れさまでした。

続きまして、12番議員の大館秀孝君から退任の御挨拶をお願いいたします。

1 2 番 大 館 先ほど中野議員が、内田君の挨拶が立派過ぎちゃって、お2人の方の後で私何を言えばいいのか。原稿は家に忘れてきちゃった。思いつきで話をさせていただきます。

私は7期28年間、人生の半分に近い年数を議員として働かせていただきました。自分では町民のために、町のために一生懸命働いてきたつもりではいますけれども、恐らく町民の皆さんは私の活躍については2階から涙のような思いでいられたのかなと思います。これからは一町民として、なおさら今まで以上にですね、松田町のために、また、うちのほうは辺境ですから、寄地域発展のために力を尽くしていきたいと思います。一町民でなりますので、今まで以上に自由に発言ができるのかなと感じております。

本当に光陰矢のごとしと言いますけれども、28年間、昨日のように思い起こします。その中で、議員生活の中で一番印象に残っているのはみやまグラウンドの地主の件で、今、田代副町長がいられますけれども、地主さんと交渉してもなかなかまとまらなかった。それが田代副町長が行って、1日で話をまとめられた。これに対しては本当に自分の力のなさに情けなく思った以上に、田代副町長に本当にそのときはありがとうございました。この場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。

そのほかにも一つ一つ例を挙げて話をすれば、明日の朝まで話しても、28年間ですから、なかなかね、終わりません。次の何とか会がありますので、その時間のほうは十分に取っていただきたく、以上で挨拶は終わりたいと思います。

最後にですね、これから出馬される皆さん、それと説明員の職員の皆さん、大変長い間お世話になって、恐らく偏屈な私ですから、腹も立ったでしょうけれども、この場を借りてお許し願いたいと謝ります。どうも皆さん、長い間あり

ありがとうございました。以上で終わります。（拍手）

議

長 長い間お疲れさまでした。

続きまして、1番議員 唐澤一代君に退任の御挨拶を頂きたいところですが、体調不良のため欠席されております。体調が回復されますよう、お祈りいたします。